久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴る「久永日記」。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に４回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・２０２０年・夏号」に掲載したものです。

コロナ禍に命と暮らし守る決意

2020夏

４月初めに大学の寮に送り届けた長男は、コロナ対策ですぐに迎えに行くことになり、自宅でオンライン授業。９月からは大学での授業が始まるとのこと。高校生・中学生・小学生の３人の子らは約３カ月間、冬眠するかのように家でゴロゴロと過ごし、夫の仕事もコロナ感染症の影響で相談業務が増え、休みが取れない日々が続いています。

そんな中、九州に一人で住む叔母から珍しく電話が入りました。「倒れて動けない」。脱水と栄養失調のＳＯＳは、倒れてから１日たっていました。80歳の同級生が弁当を買って届けてくれていたようですが、体調不良やコロナ感染症の影響を受けて行き来は途絶えていました。叔母は気持ちが落ち込み食欲もなくなっていたようです。私は一週間前に「コロナで困ってない？」と連絡したばかりでした。

コロナの影響は広く深く、必要な方に支援は届いているのか？大府市でも叔母と同じようなことが起きているのでは…？と心配しています。

みなさんのあたたかいアンテナで、困っている方を察知されましたら、日本共産党までご連絡ください。命と暮らしを守る解決策を、ご一緒に考えていきたいと思います。

久永日記

大府市の日本共産党・久永かずえ市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・2020年・秋号」に掲載したものです。

憲法9条の大切さを改めて思う

2020秋

我が家の小・中・高の子どもたちは、6月から学校が始まりました。大学生となった長男は9月から寮に戻り、オンライン授業を続け、10月からは対面授業も始まるそうです。そんな中「不動産を見に行く」と長男からメール。寮生活は1年間限定のため、来年4月からの生活の場所探しに出かけたようです。ほとんど過ごしていない寮生活。複雑な思いの部屋探しです。

さて、大府市は昨年、自衛隊員募集だとして18歳の市民約9000人の名簿を自衛隊に提供しました。さらに今年は、18歳と22歳の市民の名前と住所を印字した宛名シールを自衛隊に渡しています。市長からは「災害支援などでは無くてはならない存在の自衛隊に、それくらいの便宜を図るのは当然。問題ない」との議会での発言がありました。しかし、大府市が市民本人の承諾もなしに個人情報を渡すことは、個人情報保護の点からも問題があります。

日本は「戦争はしない」「武器は持たない」と決めた憲法9条を持っていますが、「集団的自衛権の行使容認」によって戦争の手伝いに行くことができるようになったことで、自衛隊員が命を落とす可能性もあります。自衛隊は「災害支援」の名目で若者を募集していますが、市の名簿提供は大府市の子ども、若者たちを戦場へ行かせる道の手伝いにもつながります。

長男はいま18歳。わが子はもちろん「すべての子どもたちの命を守りたい」。そのための憲法9条の大切さを改めて感じています。

久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・2021年・春号」に掲載したものです。

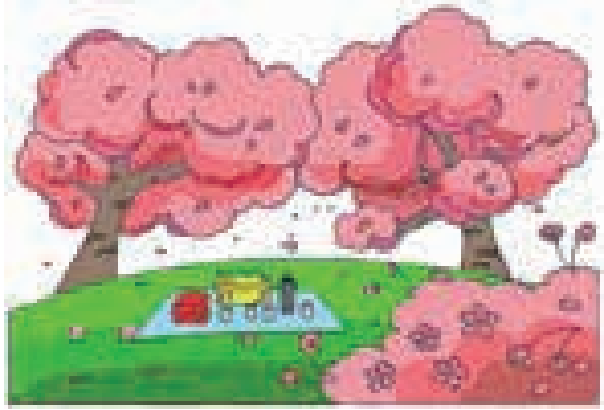
密接・密集して話せる日常を

2021春

この春、学年がひとつずつ上がった我が家の子どもたち――大学の寮生活もつかの間、新たな一人暮らし生活を始めた長男。なぜか高校3年生になる時期に電車通学から自転車通学に変えた次男。新たに高校生になった三男は春休みから毎晩、ご飯を作るようになってくれています。炊飯や材料の下ごしらえは、ばぁばにお願いしていますが、共働きにはとても助かります。長女はコロナ禍で、宿泊するキャンプがなくなるなど歯がゆい思いをしていましたが、新しい生活様式での最後の小学校生活を思い出深いものにしてほしいと思います。

こんな子どもたちを取り巻く地域のお祭りや運動会、子ども会活動は中止や縮小。地域の行事は準備等の大変さはありますが、住民が親睦を深める中で様々な役の引継ぎや次の後任のお願いなどを通じてかかわりを深める場にもなっていたのだなぁ、とあらためて感じた一年でした。

コロナ感染の拡大防止へ密閉・密集・密接の三密を避ける…今後、新しい生活様式のもとで地域の行事も行われることになるのでしょう。でも、「子どもは三密で育つ」という、ある教員の言葉に共感。やっぱり、密接に密集してみなさんとお話ししたいと、私は思います。



久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・2021年・夏号」に掲載したものです。

地域の歴史を、知って、学んで

2021 夏

雨のぱらつく蒸し暑い7月のある日、横根町の歴史遺産に触れる機会がありました。

①この2月に国登録有形文化財となった「明神樋門（ひもん）」、②愛知県指定文化財「藤井宮御酒瓶子」、③明治後期に刈谷市で焼かれた2500個のレンガでつくられたと推測される「明神川のレンガ用水路」――100年以上にわたり治水の一端を担ってきたものなどをめぐる「歴史お散歩会」への参加です。

レンガの用水路については、発見した「まちづくりの会」の方々も「子どものころから、それがあるのは知っていたが、古いものなら価値があるのでは」と専門家に問い合わせて貴重な水路だと認識した、とのことでした。

発見の経過も学ばせてもらい、そんな視点や感性がすてきだなぁ、と思いました。真似はできませんが私も、大府市の街・地域をさらに意識した視点を持って見ていきたいと思います。

そして、孫育てのときには、ゆったりと地域の歴史についても話ができることを老後の楽しみに、年を重ねていけたらと思います。

久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・2021年・冬号」に掲載したものです。

「検査で把握」の大切さ実感

2021冬

この秋、久永家は私を除く家族全員が順番に、発熱・のどの痛み・咳と同じ症状の風邪？にかかりました。電車通学している高校生の次男は風邪の症状が収まるまで自宅療養し、ディサービスに通う母はＰＣＲ検査をするように事業所から言われました。かかりつけ医や保健所からは検査を促されていないため、約１万８千円の実費で受けることも考えましたが、母は高齢で持病もあるため様々なリスクを考えて、今回は事業所から０Ｋが出るまで自宅で待機することにしました。

一段落したころ、今度は私が39度を超える発熱と倦怠感、のどの痛み…。何年振りかの高熱は一晩で下がりましたが、のどの痛みはしばらく続きました。保健所には発熱のたびごとに問い合わせましたが「コロナ感染者との接触はあったか？」「海外へ行ったか？」など同じ対応。議会が始まる直前だったこともあり、はっきりしないまま様々な不安、焦りしかありませんでした。

やはり通常のインフルエンザの対応のように、すぐに検査を行うことが、不安や家庭内感染を最小限に防ぎ周囲にも広げないことにつながるのでは、と実感しました。ワクチン接種ができても基本は検査で把握する。これにどうしても行き着くのです。命・生活を守り、感染症と共存するための「ＰＣＲ検査の実施を！」と、引き続き求めていきます。

久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に４回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・２０２２年・冬号」に掲載したものです。

できることで若い世代応援を

2022冬

大学２回生となった長男が一人暮らしをしている地域で、学生への食糧支援をしている方と出会いました。食糧支援はもちろん「困っていることはないか」などと話しかけているボランティアの姿に、離れて暮らす子を持つ親としての「安心感」を覚えました。

私も何かできないか、と思っていると、日本福祉大学の学生を中心に支援を行っている団体があることを知り、数回お手伝いに行きました。

その中で、「アルバイトの日数が減ったので食糧支援は助かります」「実家が遠いので一人暮らしをしているが、オンライン授業が続くと家賃を出して一人暮らしをすることに疑問を感じる」「年末年始に九州まで帰省する交通費の工面もきつい」「お米や野菜、助かります」などの声を聞きました。毎月必要な生理用品を手にする学生、「助かります」と言いながらも、もらってばかりでいいのかと遠慮気味の学生もいました。ボランティア参加が少ない日もあるため次回から手伝いをとお願いすると「都合が合えば」と快く引き受けてくれました。

こんな学生たちに接して、地域の一員として、議員として、母として、何ができるのかを改めて考える機会となりました。

久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・2022年・春号」に掲載したものです。

市民の声で市政は動くと確信して

2022春

私の政策の中に「ふれあいバスの充実」「買い物困難者対策」があります。共産党が行った市民アンケートや地域を回る中でお聞きした困りごとや要求から生まれたものです。

市民のみなさんの生の声をもとに、党後援会とも力を合わせて、バスに乗る市民に利用頻度や目的地など聞き取る調査をしたり、他市町の福祉バスの資料を集めたり、地域公共交通にかかわる研修会参加や参考資料の学習をしたりして、市議会では一般質問や予算・決算時の議論を行い、具体的な要求については署名運動にも取り組んでいます。

15年前に「買い物に困っている市民がいる」と私が議会で取り上げた当時は、それは交通不便な山間部の課題だと思われていたのか、名古屋市に隣接する大府市ではありえないことだという雰囲気を感じました。でも今では、買い物困難者の問題やふれあいバスの増便については、他会派の複数の議員とも共有できる課題となり、市側も課題として認めて解決に向けて動き始めています。

議員活動も4期16年目。議会の中では少数意見であっても、市民の生の声がベースになっていることに確信を持ち、信念を貫いています。来年の今頃は市議の改選。残る時間も市民の声を大事に、実現まで粘り強く市政に届けていきます。

久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・2022年・夏号」に掲載したものです。

2022夏

「18歳選挙権」に思う

18歳選挙権で次男が初めて投票となった参議院選挙。選挙の前に大府市から『選挙手帳～未来への思い～』が送られてきました。

『手帳』には、「あなたの人生には、衆議院議員・参議院議員の選挙が約40回、市長・市議会議員・県議会議員選挙など、生涯で約100回の投票機会があります」と記載され、投票済のスタンプ、またはシールを100回分貼れるようになっています。私も、昨・2021年の衆議院選挙から使っています。

次男には、今回参院選では2回投票することや、各候補者と政党の公約を見て自分の考えに近い候補者・政党を決めて投票してほしい、と伝えたうえで、私が応援する選挙区・すやま初美さんと比例代表・日本共産党の政策を紹介し投票をお願いしました。

結果、彼がどの候補者・政党に投票したのかは分かりませんが、自分が投票した候補者や政党がどのような考えなのか、政策実現に向けて取り組んでいるのかも、チェックしてほしいと思っています。

選挙は終わりましたが、物価の高騰を初め目の前の暮らしの課題は山積のままです。憲法9条を変える動きも今回の選挙でより現実的となりました。党国会議員団と協力して、市民の命と暮らしを守る活動に引き続き努力していきたいと思います。

久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、2019年の6月に発行された「後援会ニュース・2019年夏号」に掲載したものです。

市民に寄り添い 声を届ける議員として

2022 秋

市議会議員4期目となったこの4年間も、市民に寄り添い、生活の再建や困りごとの解決に向けて、相談者と一緒に考えてきました。

議会での一般質問や議案の質疑などは、生活相談などで寄せられる市民のみなさんの生の声、調査や研修の内容などをもとにして取り組んでいます。少数の意見であっても、市民の困りごとや要望の中に大きな問題がはらまれていて、議会で議論されるべきものが含まれる場合があるからです。そういう意味で、私の議員活動は市民のみなさんに支えられている、と言えると思います。

日本共産党大府東後援会のこのニュースは、私が議会に出していただいたときから16年間、年4回の市議会の報告を中心に発行されてきました（このほかに「おはよう大府」「かわら版」の発行や市政報告会などで議会報告をしてきました）。そのなかでこの「久永日記」のコーナーもいただき、私個人の日常生活のつぶやきを書き留めています。読者のみなさんから親しくお声をかけていただけるのも、このコーナーのおかげかもしれません。

早いもので、半年後の2023年4月には市議選が行われます。この4年間の活動を振り返ると、まだやらなければならないことが山積しています。引き続き5期目に挑戦して「がんばらねば」の決意を新たにしています。

久永日記

大府市の日本共産党・**久永かずえ**市議会議員が、折々の思いを綴ります。「日本共産党大府東後援会」のニュース（年に4回発行）に連載しています。ご希望の方には「後援会ニュース」をお届けします。ぜひ、ご覧ください。

▽以下は、「後援会ニュース・2023年・冬号」に掲載したものです。

希望のもてる新しい明日へ

2023 冬

市議会議員5期目をめざすなかで、大府に住む若い人たちの要求は何なのかを知るために、2000年生まれで今年20歳を迎えている市民へのアンケートに取り組みました。

寄せられてくる返信の中では、不安や困りごとが綴られ、「こうなったらいい」という問いに対しても多くのコメントをいただきました。

特徴的なのは、将来に不安を抱いている、という意見が多かったこと。「学費の負担」「賃金の低下」「自立したときの金銭面の不安」「子どもを持つことへの不安」…などが書かれていました。就職・結婚・出産・子育て…将来設計を描いているけれど、展望が持てない社会になっているのではないでしょうか。同じ世代の子どもを持つ親として、また議員としても、政治の責任の重さを改めて感じています。

アンケート結果をお知らせしながら、若者に将来への不安など抱かせないような社会にしていけるように、引き続きさまざまな年代の方々との対話を大事にして活動していく決意を新たにしました。